

CHAPTER 01 / 基本の手順

地元の話から、投稿を1本つくる

この章でつくるもの：投稿1本の下書き

まずは、お店のまわりの話から投稿を1本つくります。必要なのは、場所、そこで見かける場面、店の案内。この3つです。上手な売り文句を考える前に、いつも見ている景色を言葉にしてみましょう。この講座では「書けた」で終わらず、その投稿を読んだ人がお店を知るところまで整えます。最初の下書きは、後の章で何度でも書き直せます。

店の近くの場所を、一つ選ぶ

駅、坂、商店街、公園、バス停。自分が実際に通る場所を一つ選びます。「県内の人」ではなく、その道を使う人の景色を思い浮かべると、文章が具体的になります。迷ったら、今日店に来るまでに見た場所から選んでください。

そこで起きていることを書く

朝は自転車を押して歩く人が多い。雨の日は屋根の下で傘をたたむ。見たことを一文にします。地域全体の特徴に広げず、自分が見た範囲で書けば、身近な題材を安心して使えます。

店の案内を、一つだけ添える

場面とつながる案内を選びます。通勤の話なら朝の利用、帰り道の話なら持ち帰り。場所・営業時間・予約方法を全部詰め込まず、この投稿で伝えたい一つを決めます。細かな利用情報は、第5章でプロフィールにまとめます。

CHAPTER 01 / 考え方と具体化

地名・写真・言葉を、一緒に決める。

お客さんが過ごす場面を、最初の一文にする

まず、お店の前を通る人が何をしているかを観察します。朝の通勤、昼休み、保育園へのお迎え、休日の散歩。店主にとって同じ道路でも、通る人の目的は違います。「地域の皆さまへ」を、その人が思い浮かぶ一文に変えてみましょう。

たとえば「駅へ急ぐ朝、朝食を買いそびれた人へ」。この書き出しを使うなら、実際に朝から買える商品と営業時間が必要です。読んだ人の一日と、お店が提供できることが重なる場所を見つけるのが、この練習の目的です。

写真と文章で、一つの場面を伝える

写真を添えるときは、一枚に役割を一つ決めます。パンなら焼き色や断面、カフェなら一人で座れる席、ホテルなら部屋で過ごす時間が想像できる景色。文章で説明した内容を、写真でも確かめられるように選びます。

撮影のために新しい設備を買う前に、手元の写真を見直してください。営業中と違う明るさや広さに見せる加工は避けます。人が写る場合は掲載の了解を取り、他のお店や宿の写真を自店の写真として使わないようにします。

地名・写真・一文目を一緒に決める

地名は、読者が自分の生活にある店かを判断する入口です。県名だけでなく、駅・町・通り・散歩の帰りなど、実際に使う言葉へ近づけます。

写真の一枚目には、本文で一番見てほしいものを置きます。料理なら断面や湯気、宿なら窓の先と座る場所、店主の話なら手元や仕事の様子。二枚目で詳しく見せ、最後に外観や道順を置く方法も試せます。

書き出しを読んだ直後に写真を見ると、同じ話が続いているか。そこまで含めて一つの投稿として整えます。

CHAPTER 01 / 書き換えの見本

言葉と写真で、行きたい理由を。

地元の人に、食べる場面まで届ける / 福岡・六本松の架空のパン屋

CHIERO制作の架空例。店・商品・営業条件・出来事は練習用の設定です。

書き換え前

本日もパンを焼いています。ご来店お待ちしております。

書き換え後

大濠公園を一周したら、朝ごはんは六本松へ。
焼きたてのあんバターを割ると、真ん中のバターがじわっと溶けます。
福岡・六本松の小さなパン屋です。
散歩の帰りに、今日の朝ごはんを選んでいきませんか。
店の外観と道順は、写真の最後に載せています。

変えたこと

場所だけでなく「散歩の帰り」という行く場面を指定。あんバターの動きが食べる楽しみを作る。最後は写真の道順へつなぐ。

写真・動画の組み合わせ

SHOT 01 あんバターを割った断面。バターが溶ける瞬間を窓際で撮る。	SHOT 02 紙袋とパンを持つ手元。朝の外光で撮る。	SHOT 03 店の外観。入口と目印が同時にわかる距離から撮る。
---	--------------------------------	-------------------------------------

[見本 06 : 六六堂パン制作所 / 地域への自己紹介 / 原投稿を開く](#)

[見本 05 : 喫茶 今日 / 原投稿を開く](#)

CHAPTER 01 / 業種別の制作例

自分のお店なら、こう見せる。

制作例は練習用の架空の設定です。自店の実際の商品・営業条件・出来事に置き換えて使ってください。

カフェ / 福岡・薬院

薬院で、プリンのために寄り道する午後を。
スプーンを入れると、むっちり。カラメルは、甘いだけで終わらないほろ苦さに。
窓際にコーヒーを置いたら、今日のおやつの準備はできました。
お買い物の帰り、一息ついていきませんか。

地名→食感→座った場面→寄り道の提案。「おいしい」を食べる前に想像できる言葉へ変える。

SHOT 01 プリンにスプーンを入れた瞬間を横から。	SHOT 02 窓際のプリンとコーヒー。席に座った高さから。	SHOT 03 店の外観と入口。
--------------------------------	-----------------------------------	---------------------

[見本 02 : BEANS FARM / 場所と歴史 / 原投稿を開く](#)

[見本 05 : 喫茶 今日 / 原投稿を開く](#)

ホテル / 大分・由布院

由布院で、何もしない予定を入れませんか。
窓の先は由布岳。読みかけの本と、湯上がりの冷たいお茶。
観光を詰め込まない午後のために、窓辺に椅子を二つ置きました。
部屋で過ごす休日の写真を、並べてみます。

地名に加えて、泊まった後の時間を提示。設備の羅列より先に旅の目的を作る。

SHOT 01 椅子と窓の先を一緒に撮る。	SHOT 02 椅子の隣に本とお茶。	SHOT 03 夕方の同じ窓辺。光の変化を見せる。
--------------------------	-----------------------	------------------------------

[見本 21 : ryokan_designer / 原投稿を開く](#)

[見本 19 : cofunia / 原投稿を開く](#)

食堂 / 東京・高円寺

高円寺で、夕飯を作る元気が残っていない日に。

今日は生姜焼きです。肉を焼いたフライパンに、たれを入れる音がしたら、もうすぐ出来上がり。

ごはんと味噌汁をつけてお待ちしています。

一日の最後の仕事は、ここで箸を持つだけにしませんか。

生活の困りごとと、店が渡す小さな解放感を組にする。読者にしてほしい行動が自然に見える。

SHOT 01 たれを入れた瞬間の短い動画。	SHOT 02 定食全体を座った目線で。	SHOT 03 一人でも座る場所がわかる店内。
---------------------------	-------------------------	----------------------------

[見本 05：喫茶 今日 / 原投稿を開く](#)

[見本 20：しぼりや / 原投稿を開く](#)

書き出しを変えて、見せ方を選ぶ

同じ架空のパン屋を、三つの入口で。写真と合う一文を選びます。

場所から / 大濠公園を一周したら、朝ごはんは六本松へ。

散歩帰りの人へ。公園の写真より、食べるパンを一枚目に。

写真から / 割った瞬間、バターがとける。六本松の朝ごはんです。

断面の写真と組にして、温かさを想像してもらう。

食べる場面から / 散歩した朝は、あんバターを一つ買って帰ろう。

朝の小さな楽しみを提案。次の文に福岡・六本松を添える。

CHAPTER 01 / 自分の原稿へ

場所・場面・案内をつないで、一本書く

使う材料：店の近くで実際に見る場所と、今日提供できる商品を用意します。

完成の目安：初めて読む人に「どこで、何を楽しめるか」が伝わる下書きが一本ある。

この章の整理に使う型

【場所】で、【よく見る場面】。
【それに対する、自分のひとこと】。
【場面につながる店の案内】。

三つの情報を、一本の投稿にする

架空の設定：架空のカフェは、公園の向かいにあり、午前中はテイクアウトを提供しています。現在の原稿は「おいしいコーヒーあります。お待ちしております」。

公園で過ごす人が自分のことだと思える書き出しに直してください。提供していないサービスは足さないでください。

解答例

公園をひと回りした朝、帰り道にコーヒーを。向かいの当店では午前中、テイクアウトをご用意しています。散歩の締めくくりにどうぞ。

「誰の、いつの場面か」を追加し、商品の受け取り方を明示しました。

さらに試してみる

1. 場所の候補を三つ書き、店に立ち寄る前後の行動を一つずつ添える。その中から今日の一本に使う組み合わせを選ぶ。
2. 「営業しています」の原稿に、商品の具体的な見どころを一つ加える。断面・湯気・手触りなど、実際に撮れる特徴を使う。
3. 下書きと候補写真を横に並べる。文章だけに登場するもの、写真だけに写るもの確かめ、同じ主役になるよう直す。

CHAPTER 01 / 原投稿を比較する

真似する部分を、選んで使う。

POST 06 六六堂パン制作所 / 地域への自己紹介

神奈川県・平塚市日向岡 / 場所と過ごし方

5.6万表示 / 確認2026-09-09

平塚市日向岡、住宅街の端、夫婦の小さなパン屋。短い文章の中に、地理・立地・営む人が入っている。

取り入れる構造：初めましては、町名・人・店の三点で伝える。

仕上げるもの：市区町村、目印、営む人、何の店かを一行ずつ書き、三文以内の自己紹介にする。

[本文・写真・続きはThreads原投稿へ](#)

POST 05 喫茶 今日

福岡・井尻 / 場所と過ごし方

3.8万表示 / 確認2026-09-09

井尻駅徒歩2分なのに、大通り沿いではなく知られていない。この小さな意外性が「穴場」の説明になっている。

取り入れる構造：店の紹介を、その街で過ごす半日に広げる。

仕上げるもの：「街で○○→店で○○→帰る前に○○」の三場面をつなぎ、半日の過ごし方を書く。

[本文・写真・続きはThreads原投稿へ](#)

比較する四つの場所

誰に、どの地名で呼びかけるか。 一文目で何を見たくさせるか。 どの写真が本文を具体化するか。 行きたい人へ何を案内するか。

数値は2026年9月9日の累積画面表示。画像付きの詳しい読み解き方と制作例は、別冊の同じ投稿番号で読めます。

CHAPTER 01 / 実画面で練習

店の思いを、見たくなる商品へつなぐ



POST 01 / いいね 2.4万 / 56万表示

原投稿の画面 / @premiumcherish / 公開 2026-09-05

原投稿・写真・続きはこちら

1. 本文で語っている店の積み重ねは何ですか。
2. 一枚目の動画と、次の商品写真は何を見せていますか。
3. あなたの店なら、何の仕事と完成品を組にしますか。

見方と解答例

本文は続けてきた仕事を伝え、映像は手元と商品を見せています。パン屋なら生地を丸める手元と焼き上がり、花屋なら束ねる手元と花束。自店にある作業と完成品を組にしましょう。

ここで仕上げるもの：仕事を伝える一文 + 完成品を伝える一文 + 撮る一枚